

IV 情報普及活動

本研究所の情報普及活動は特殊教育に関する図書資料等の収集、提供及び実地的な研究成果の普及を目的としており、我が国の特殊教育の振興に資する研究所として、研究活動及び普及活動、並びに情報化への対応を行う他、全国の特殊教育センター等をはじめとする内外の研究機関等との連携・協力及び国際交流を通じた情報普及活動を進めた。

また、研究成果の普及については、プロジェクト研究をはじめとする各研究の研究成果の報告書を全国の関係機関に配布するとともに、特殊教育セミナーを年2回開催する他、国際セミナー等の開催によりアジア太平洋地域を中心とした各国への情報提供による国際貢献に努めた。

1 障害のある子どもの教育の総合的な教育情報提供体制の整備

特殊教育諸学校等の教職員や保護者など、利用者のニーズに対応したものとなるよう研究所のWebサイトにポータルサイトの掲載内容及び関係機関等へのリンク接続の充実を図った。特に、「障害のある子どもの教育について学ぶ」コーナーでは、各障害のことなどについて理解してもらうとともに、短期研修の講義資料等を掲載し、本研究所の研修受講者の事前学習に役立たせ、校内研修等でも利用できるようにしている。今後とも、ポータルサイトの掲載内容等の一層の充実を図ることとしている。

2 図書資料の収集・整備の状況

本研究所が特殊教育に関する情報源として果たす役割は極めて重要であり、平成16年度現在、図書資料の収集や学術文献の整備は、図書所蔵数が和洋合わせて約5万7千冊に達し、研究紀要、研究報告書等の所蔵についても約1万6千冊に達している。これらの中には本研究所の他、少数の大学や研究機関のみが所蔵する資料も多く、外部からの問い合わせや文献複写の依頼も増加傾向にある。

すでに電子化公開を行っている本研究所刊行物については、蔵書目録データベースの検索結果から、直接電子情報を閲覧できる体制を図るとともに、未公開の刊行物についても、目次情報提供の準備を進めている。

今後とも、研究・研修等の諸活動の遂行を効率的に支援するための情報システムを構築することが重要であることから、引き続き研究資料、図書、学術文献等の収集・整備を行うとともに、海外の特殊教育関係資料の収集を図り、研究所内外からの閲覧や貸出等のニーズに適切に対応することとしている。

(1) 図書資料の収集・提供の状況

ア 資料の所蔵状況（平成17年3月31日現在）

	和	洋	合計	平成16年度の増加数
図書	41,399冊	15,813冊	57,212冊	1,227冊
資料（研究紀要、研究報告書等）	14,642冊	1,678冊	16,320冊	633冊
雑誌	1,320種	483種	1,803種	21種

* 研究紀要、研究報告書等の「資料」として所蔵している資料は、特殊教育のナショナルセンターである本研究所として積極的な収集に努めるべきものであり、各地での関係資料の発行状況の把握に努め、さらにはデータベース化の検討を進める。

イ 資料の提供状況（貸出冊数）

	平成14年度	平成15年度	平成16年度
研究員・職員（久里浜養護学校教職員を含む）	1,208冊	1,411冊	1,323冊
研修員等（長期・短期・講習会参加者）	2,283冊	2,135冊	2,884冊
合計	3,491冊	3,546冊	4,207冊

* 平成13年度より、図書館入館管理システムを導入、閲覧については24時間対応を実施。また、図書室内にコイン式コピー機（管理は障害児教育財団）を設置、セルフサービスによるコピーサービスを開始している。

ウ 文献複写の対応状況

	平成14年度	平成15年度	平成16年度
受付件数	241件	264件	299件

外部からの文献複写サービス依頼については、平成16年度は299件について対応している。蔵書目録を含む各種データベースのホームページでの公開以後、着実に件数が増えている。

また、複写以外にも、大学等外部機関からの研究所刊行物の寄贈依頼43件（送付冊数 143冊）に対応している。

(2) データベースの整備状況

これまで蓄積されてきたデータは、インターネットを通じ利用できるようになり、ますます重要性が高まり、より迅速なデータ更新、累積が求められるようになった。

特殊教育関係文献目録については、平成15年発表の文献の残り1,553件に、平成16年発表の文献のデータ3,400件、合わせて4,953件の追加を行った。これで、平成17年度以降は、これまで最長の場合で1年近くかかっていた論文掲載誌の刊行からデータ登録までの期間短縮が可能となる。

ア 既存データベースの整備状況

データベース名	収録件数	平成16年度増加件数
特殊教育関係文献目録DB	72,771件	4,953件
特殊教育実践研究課題DB	44,079件	1,675件
蔵書目録DB	77,685件	2,119件
特殊教育法令等DB	141件	9件
特殊教育学習指導要領等DB	29件	3件
特殊教育センター等研修情報DB	1,136件	806件
盲・聾・養護学校研究報告DB	62件	7件
特殊教育教材関係DB	50件	10件
世界の特殊教育DB	606件	224件

イ 平成16年度のデータベースへのアクセス件数

	平成14年度	平成15年度	平成16年度
文献目録DB／実践研究課題DB／所蔵目録DB	233,577件	300,384件	303,673件
法令等DB／指導要領等DB／盲・聾・養研究報告DB	75,405件	104,799件	175,770件
研修情報DB／世界の特殊教育DB／教材・教具DB	—	11,104件	16,227件

3 研究成果の普及状況

(1) セミナーの開催

国立特殊教育総合研究所セミナーは年2回、特殊教育の発展、研究成果の普及を目指して、時宜を得たニーズの高いテーマや最新の研究の動向・情報、あるいは本研究所の各種研究成果を報告、公開してきた。

参加者は特殊教育諸学校教員、指導主事、研究者等が多いが、近年の学習障害等をはじめとする軽度の障害のある子どもへの教育的支援に資するために、テーマ、組み立てを工夫して、特殊学級、通常学級担当の教員にも対象を拡大し、今後の教育活動に役立てるように考慮してきている。

本年度のセミナーの開催状況及び参加者のアンケートは次のとおりである。

ア 国立特殊教育総合研究所セミナーⅠ

テーマ：①メインテーマ

一人一人の子どもの特別な教育的ニーズに応えるために
－支援体制の構築と支援の実際－

②分科会テーマ

「特別支援教育コーディネーターに期待される役割・機能を考える」
「小中学校における個別の教育的支援計画策定に向けて、今を考える」
「LD、ADHD、高機能自閉症等の子どもの指導
－一人一人の教育的ニーズを踏まえて－」

開催日：平成17年1月18日～1月19日（2日間）

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）

参加者：702名

内 容：一人一人の子どもの特別な教育的ニーズに応えるための実現に向けて、支援体制の構築と支援の実際に関し、基調講演、シンポジウムを行うとともにその要となる特別支援教育コーディネーターの役割や機能、個別の教育支援計画の策定、LD、ADHD等への指導の在り方等を視点に情報交換を行い、課題の実現に向けての協議を行った。なお、メインテーマに関しての基調講演、シンポジストの発表については、インターネットを利用してストリーミング配信も行った。

(参加者の反応)

参加者に実施したアンケートでは、「テーマ」についての興味・関心度は96%が「非常にあった」「ややあった」であり、セミナー参加の意義については82%が「そう思う」「ややそう思う」であった。また、講演等で理解が深まったかどうかについても、80%が「そう思う」「ややそう思う」であり肯定的であったが、次のような意見もあり、次年度以降の開催方法などの改善の参考にしたい。

- ・ 質疑応答の時間がもう少しほしかった。
- ・ プレゼンテーションの字を大きくしてほしい。
- ・ プレゼンテーションの画面切り替えの時間が短く、書き留めるのが大変だった。
- ・ 休業中だと参加しやすい。

○テーマについて興味・関心がありましたか。

非常にあった	ややあった	普通	余りなかった	全くなかった	その他
73%	23%	2%	0%	0%	2%

○セミナーに参加して意義があった。

そう思う	ややそう思う	どちらとも	余り思わない	そう思わない	その他
68%	14%	2%	0%	0%	16%

○テーマに即した講演・話題内容で、理解が深まった。

そう思う	ややそう思う	どちらとも	余り思わない	そう思わない	その他
58%	22%	2%	1%	0%	17%

イ 国立特殊教育総合研究所セミナーⅡ

テーマ：①メインテーマ

障害のある子どものよりよい教育をめざして

－中央教育審議会の動向と研究所研究活動の成果より－

②分科会テーマ

「小・中学校における障害のある子どもへの支援体制」

「盲・聾・養護学校におけるセンター的機能の展開」

「自閉症の特性に応じた教育実践－今の充実と明日への展望－」

開催日：平成17年2月23日（1日）

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）

参加者：706名

内 容：近年、従来の障害のある児童生徒の教育の充実に加え、通常学級にいる教育上特別の支援を必要とする児童生徒の支援体制が重要な課題となっている。中央教育審議会では、これらの改善に向けての審議が重ねられている。本年度のセミナーⅡは、中央教育審議会での審議をもとに、その政策動向についての基調講演、①小中学校における支援体制、②養護学校等におけるセンター的機能、③自閉症児の教育の在り方についての協議を行った。なお、基調講演については、インターネットを利用してストリーミング配信も行った。

（参加者の反応）

テーマについての関心度は、参加者に実施したアンケートでは、「テーマ」についての興味・関心度は88%が「非常にあった」「ややあった」であり、セミナー参加の意義については76%が「そう思う」「ややそう思う」であった。また、報告内容等で理解が深まったかどうかについても、68%が「そう思う」「ややそう思う」であり肯定的であったが、次のような意見もあり、次回からの改善等の参考にしたい。

- ・パワーポイントの資料は必ずつけてほしい。
- ・申込期間をもう少し後にしてほしい。
- ・受付時間を遅らせてほしい。

○テーマについて、興味・関心がありましたか。

非常にあった	ややあった	普通	余りなかった	全くなかった	その他
70%	18%	9%	0%	0%	3%

○セミナーに参加して意義があった。

そう思う	ややそう思う	どちらとも	余り思わない	そう思わない	その他
41%	35%	12%	7%	3%	2%

○テーマに即した報告内容で、理解が深まった。

そう思う	ややそう思う	どちらとも	余り思わない	そう思わない	その他
30%	38%	17%	8%	3%	4%

(2) 研究成果物の普及

ア 平成16年度中に発行した刊行物

研究の成果等は、研究紀要、英文紀要（A：2冊）や各種の研究成果報告書（研究課題単位で編集される研究報告書（B：7冊発行）、プロジェクト研究等報告書（C：2冊発行）、科学研究費による報告書（F：7冊発行））として17冊編集・刊行し、関係諸機関に配布し、その普及に努めている。

研究の成果以外の刊行物として、研究所の概要や活動を記録した刊行物、セミナーの報告書等を刊行し、配布している（研究・教育資料（D：15冊発行））。

平成16年度は合計32冊を刊行した。

（平成16年度刊行物一覧）

○研究紀要（A）

- A-32 国立特殊教育総合研究所研究紀要 第32巻
NISE A-8 NISE Bulletin. Vol. 8

○各研究部単位で編集される研究報告書（B）

- B-192 全国小・中学校弱視学級及び弱視通級指導教室実態調査（平成16年度）
B-191 子どもと知り合うためのガイドブック
ーことばを超えてかかわるためのコツー
B-190 動物とのふれあいに関する教育活動ガイドブック
ー馬と会いに行こう馬と仲良くなろう
B-189 インスリン依存型糖尿病の子どもへの教育支援に関するガイドライン（試案）
B-188 知的障害養護学校における職業教育と就労支援に関する研究
B-187 腎臓疾患の子どもへの教育支援に関するガイドライン（試案）
B-186 発達障害のある学生支援ガイドブック
ー確かな学びと充実した生活をめざしてー

○プロジェクト研究報告書（C）

- C-51 障害のある児童生徒等の教育の総合的情報提供体制の構築と活用に関する実
際的研究
C-50 LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド

○研究・教育資料 (D)

- D-229 Newsletter for special education in Asia and the Pacific. No. 24
- D-228 Final report of the 24nd Asian and Pacific international Seminar on Special Education, 12-15 October 2004, Yokosuka, Japan
- D-227 世界の特殊教育 IX
- D-226 障害のある子どもの教育相談マニュアル Ver.2「地域を支える教育相談」
- D-224 ICF活用の試み(国際生活機能分類)
ー障害のある子どもの支援を中心にー
- D-223 平成16年度 国立特殊教育研究所セミナーII 資料
テーマ 障害のある子どものよりよい教育をめざして
ー中央教育審議会の動向と研究所研究活動の成果よりー
- D-222 独立行政法人国立特殊教育総合研究所広報誌「くりはまの海」(第8号)
- D-221 第5回日韓特殊教育セミナー 2005
日韓の特殊教育情報化の現状と今後の方向
- D-220 平成16年度 国立特殊教育研究所セミナーI 資料
テーマ 一人一人の子どもの特別な教育的ニーズに応えるために
ー支援体制の構築と支援の実際ー
- D-219 Newsletter for special education in Asia and the Pacific. No. 23
- D-218 独立行政法人国立特殊教育総合研究所広報誌「くりはまの海」(第7号)
- D-217 独立行政法人国立特殊教育総合研究所研究者総覧
- D-216 独立行政法人国立特殊教育総合研究所広報誌「くりはまの海」(第6号)
- D-215 独立行政法人国立特殊教育総合研究所平成15年度事業報告書
- D-214 独立行政法人国立特殊教育総合研究所広報誌「くりはまの海」(第5号)
- D-213 国立特殊教育総合研究所教育相談年報 第25号
- D-212 平成16年度事業概要
- D-211 独立行政法人国立特殊教育総合研究所要覧[含 筑波大学附属久里浜養護学校概要] 平成16年度

○科学研究費による報告書 (F)

- F-132 心身症・神経症等を伴う不登校児の心理・行動特性及び指導法に関する研究
- F-131 3次元造形システムを活用した視覚障害児のための絵画の立体的翻案とその指導法の活用
- F-130 学習障害等の生徒に対する後期中等教育段階の支援に関する現状と課題
- F-129 イタリアのインクルーシブ教育における教師の資質と専門性に関する調査研究
- F-128 通級指導教室における言語障害児への生活充実指向型教育支援プログラムの構築
- F-127 聴覚障害乳幼児と保護者に対する最早期教育的支援プログラムの開発
- F-126 個別の指導計画作成ハンドブック:学習のつまずきへのハイクオリティーな支援

イ 刊行物の電子化と公開

平成16年度は、平成15年度の刊行物を中心に、電子化公開の対象である平成12年度以降の刊行物のうち、未公開であった23件を含む、56件のデータを追加した。

平成16年度末現在、累計で130件(紀要等6件、課題別研究報告書等35件、プロジェ

クト研究報告書等14件、研究・教育資料等50件、科研費報告書等25件)を公開中であり、対象となる刊行物の約90%の電子化を終了した。

4 研究職員の都道府県等が行う研修等への講師の派遣状況

研究職員は地方自治体の教育委員会、特殊教育センター等あるいは養護学校等が開催する研修・講習会に研修・講習会講師や研究協議の指導者として平成16年度には、延べ227名が出向いた。研究所のこれまでの研究・研修の成果等を広めるとともに、派遣先での反応や研究協議で出た意見等を、研究所での研究・研修の充実に反映させている。

5 研究所の公開

平成16年7月に研究所公開を行った。

各研究部の研究内容や関連情報及び教育相談センターの教育相談実施状況や動向等をパネル等を利用して説明するとともに、視力・聴力検査の実施、介護・介助指導等を研究職員等の実演を交えて行い、質問にも対応し、近隣の教育・福祉関係者及び地域住民を含めた、約221名の参加者との交流を深め、特殊教育並びに研究所の研究・研修・教育相談等の活動に対する理解啓発に努めた。

その他、施設見学(火曜及び木曜)を随時受け付け、23件、148名の見学者があった。

6 「障害者週間」関連行事

平成16年6月の障害者基本法改正により、従来の「障害者の日」(12月9日)は「障害者週間」(12月3日～9日)に拡大され、障害を理由とする差別禁止の理念の啓発活動が全国で実施された。

本研究所でも、障害者週間の理念である障害者理解の促進を図るため、平成16年度「障害者週間」関連行事として、児童を対象とした「障害者理解啓発のための体験学習会」を実施した。概要は以下の通りである。

開催日：平成16年12月9日(木)

場 所：横須賀市立野比東小学校(神奈川県)

参加者：小学4年生の児童 80名(2クラス)

内 容：小学4年生の国語の「点字・手話」をテーマとした授業において、本研究所の研究職員により、障害者理解啓発のための体験学習会を開催した。児童は4つのグループに分かれ、それぞれ、①点字、②アイマスク体験、③手話、④車椅子体験の4つの体験学習を行った。

7 まとめと今後の課題

資料の収集・整備に際して、今後は効率的な資料収集の観点から、できる限り他機関との重複資料を避けるべく、購入図書・雑誌の収集基準の見直しを行っていくことが求められるが、特殊教育のナショナルセンターとしての機能を低下させることのないよう、十分な配慮が必要である。また、特殊教育に関するデータベース整備についても、既存データの更新・見直しを行いつつ、着実な整備が必要である。

これからの普及活動については、特殊教育のナショナルセンターとしての機能をより一層発揮し、様々な利用者のニーズに対応したものとなるよう、障害のある子どもの教育の総合的な教育情報提供体制の整備を図る必要がある。その一環として、ホームページの一層の充実を図るとともにインターネットによる特殊教育情報の積極的な発信や講義の配信に力を入れることとしている。

刊行物の電子化については、その対象となっている平成12年度以降のものについては、ほぼ90%が公開されているが、さらにその割合を高めていくと同時に、現在未公開となっている平成11年度以前の刊行物について、今後どのように扱っていくのか検討の必要がある。

国立特殊教育総合研究所セミナーは、参加者へのアンケート調査でも、テーマへの関心の高さを含め、概ねプラスの評価を得られているが、参加者の意見等を踏まえながら、今後も更なる改善を進めたい。